

目標達成シートの例

「目標達成シート」には、各修学目標の達成に結びつく修学の軌跡と成果として次の要素（CE RO AC AE）が記載されることとなります。

構成要素1 Concrete Experience(CE)	具体的な体験学習を文書化する
構成要素2 Reflective Observation(RO)	体験を他の人の見方により考察・理解し、自分の見方にとりこみ再考察したことを文書化する
構成要素3 Abstract Conceptualization(AC)	再考察したことを調査・研究を通して理論により論証した結果を文書化する
構成要素4 Active Experimentation(AE)	体験学習の再考察から学習したことを応用し次の行動計画を文書化する

フォーマットは、フリーですが、文字数はA4サイズの紙に2枚から3枚程度となります。なお、評価は以下の項目を基準に行います。

分類	評価箇所	配点	小計	合計
CE	<ul style="list-style-type: none"> イントロダクション(第三者に理解してもらうための体験の概要) 体験下での思考と行動およびその起因 体験下でのその時の感情 体験からの成果(学習した内容) 	1	4	20
		1		
		1		
		1		
RO	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見の考察 自己の意見と他者の意見の統合による成果(再学習した内容) 	2	4	
		2		
AC	<ul style="list-style-type: none"> 抽象概念化した学術的説明 2つ以上の著作物文献の引用と引用方法 	3	4	
		1		
AE	<ul style="list-style-type: none"> 再学習した内容を活用した行動計画の基本アイデア作成 基本アイデア実行あたり付加すべき新たな知識・スキル・能力・経験 	2	4	
		2		
IS	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成シートの内容の構成 目標達成シートのストーリー性 目標達成シートの明確な焦点 目標達成シートの文書の文法 	1	4	
		1		
		1		
		1		

ISとは、Integration and Synthesis(文章の目的を理解し、シンプルかつ明確に、ストーリー性を含めて文章化すること)です。

表: 目標達成シートの要素と評価項目

目標達成シート 修学目標

多様な文化・社会・企業の変化・変容のメカニズムを分析して、新しいモデルの設計やビジネスプロセスの実装を行う能力の修得

CE
イントロダクション

XXXX年X学期、私は金沢工業大学大学院知的創造システム専攻で、ビジネスモデルの設計に関する科目「特論」を履修しました。この科目では、次のような大きなプラクティカムに取り組みました。それは、3名のチームを作り、チームで多様な文化・社会・企業の変化・変容のメカニズムを分析して、新しいビジネスモデルを創出することでした。……………そのビジネスモデルは、「XXX」であり、詳細については、エビデンスに保存されているベストプラクティカムシートを参照してください。私は、このプラクティカムにより、修学目標の達成を証明しました。

CE
感情

私はこのプラクティカムを行うまで、ビジネスモデルを一ヶ月という短期間で創出することに、非常に不安を感じていました。なぜなら、ビジネスモデルの概念や創出方法についての知識は身に付けていましたが、具体的にビジネスモデルを創出した経験は皆無でした。そのため深い不安を抱いていました。

CE
思考行動

いざプラクティカムを実践すると、私は、具体的なビジネスモデルを一ヶ月という短期間で創出することができました。私は、この成功のキーとなったのは「チームワーク」だと思いました。なぜなら、私のチームメンバーは、誰もビジネスモデルを創出した経験を持っていないにもかかわらず、チーム全体で組織作りおよび組織行動に重点を置き、プラクティカムを実践しました。チームとしてのVISION / MISSION / VALUE / STRATEGIES / TACTICSをコンセンサスで決め、各チームメンバーが持っている知識とヒューマンパワーをもとに役割分担とワークフローを作成し、チーム一丸となって、プラクティカムを実行して、ビジネスモデルの創出を短期間で行うことに成功しました。

CE
成果

このプラクティカムの評価は、多様な文化・社会・企業の変化・変容のメカニズムの中で企業に焦点を定めてそのメカニズムの適正分析を行なっているかどうか？ 企業の新しいビジネスモデルを創出しているか？という点で、講義担当の先生から評価「A」をチームに与えられました。このプラクティカムにより、私は、修学目標の能力を修得すると同時に、このプラクティカムを通して組織作りや組織行動の重要性を認識しました。

RO
他者の意見の考察

このプラクティカムを再考するために、私は、他のチームメンバーと、他に成功のキーがあるかどうかについてチャットを利用して意見交換を行いました。この再考にあたり、私は、チームメンバーおよび先生との交信したログファイルも参考にしました。チームメンバーAさんは、成功の要因について、「組織作りや組織行動も重要ですが、われわれは、迅速かつ適切に外部環境を分析して、その環境に適したビジネスモデルを選択したからだだと思います。」と言いました。Aさんの言われることは、確かだと思いました。私は、チームメンバーBさんも、同様な事を考えているのではないかと思い、Bさんとも意見交換をしました。Bさんは、「そうですね。私も同意見ですが、さらに成功の要因があると思いました。私たちは迅速に[外部分析 ビジネスモデルの選択 ビジネスプロセスの統合]ができたからだと思いました。」 私は、Bさんの意見にも納得しました。

RO
統合による成果

私は、AさんとBさんの意見を取り入れ、次のようなことを再学習しました。ビジネスモデル構築には、組織作りや組織行動も重要ではありますが、ビジネスモデル構築には「分析」・「選択」・「統合」が必要であり、それがビジネスモデルの原動力となるはずだと考えました。ドッグイヤーと言われる今の時代、4倍のスピードで外部環境は変化していくため、もし、外部環境分析とビジネスモデル構築を1年かけてやっていたら、顧客主義重視のビジネスモデル構築には対応できないと考えました。また、ビジネスモデルの構築の仕組みとして、日を追うごとに複雑化してきているビジネスモデルなので、迅速な「分析」・「選択」・「統合」が必要であると考えました。(1)迅速な外部環境の分析(2)迅速な最適ビジネスモデルの選択(3)迅速なビジネスプロセスの統合という切り口から整理・体系化し、迅速にビジネスモデルを構築することが最重要だと考えるに至りました。

AC
抽象概念化

ビジネスモデル構築には迅速な「分析」・「選択」・「統合」が必要であり、それがビジネスモデルの原動力となることについて次の文献より論証しました。文献Aによると、「XX」と述べています。[XXXX, 2001]また、文献Bによると、「本気で一気に創り上げる。この力がビジネスモデルの原動力」と述べています。[XXXX, 2000]その結果、私の再学習した「(1)迅速な外部環境の分析(2)迅速な最適ビジネスモデルの選択(3)迅速なビジネスプロセスの統合という切り口から整理・体系化し、迅速にビジネスモデルを構築することが、ビジネスモデルの原動力となる」ということを論証できました。

AE
行動計画

再学習した内容による次の行動計画として2つの行動計画を策定しました。
行動計画 . XXXX年XX月、自社のビジネスモデル開発部配属予定なので、その際に、XXを実践する予定です。
行動計画 . XXXX年XX月、ビジネスモデル特許開発研修で、ビジネスモデル特許開発のチームプロジェクトを行う予定なので、その際に、行動計画 と同様のことを取り入れ実践する予定です。

AE
付加すべきもの

行動計画 を実現するにあたって、私に必要とされる新たな知識は、ビジネスモデル特許に関する知識です。今後、テキストやビジネスモデル特許に関するフォーラムやセミナーにて知識を習得する予定です。

AC
引用引用方法

参考文献
XXXX 2000 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XXXX 2001 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.

IS:文章構成、ストーリー性、明確な焦点、文法